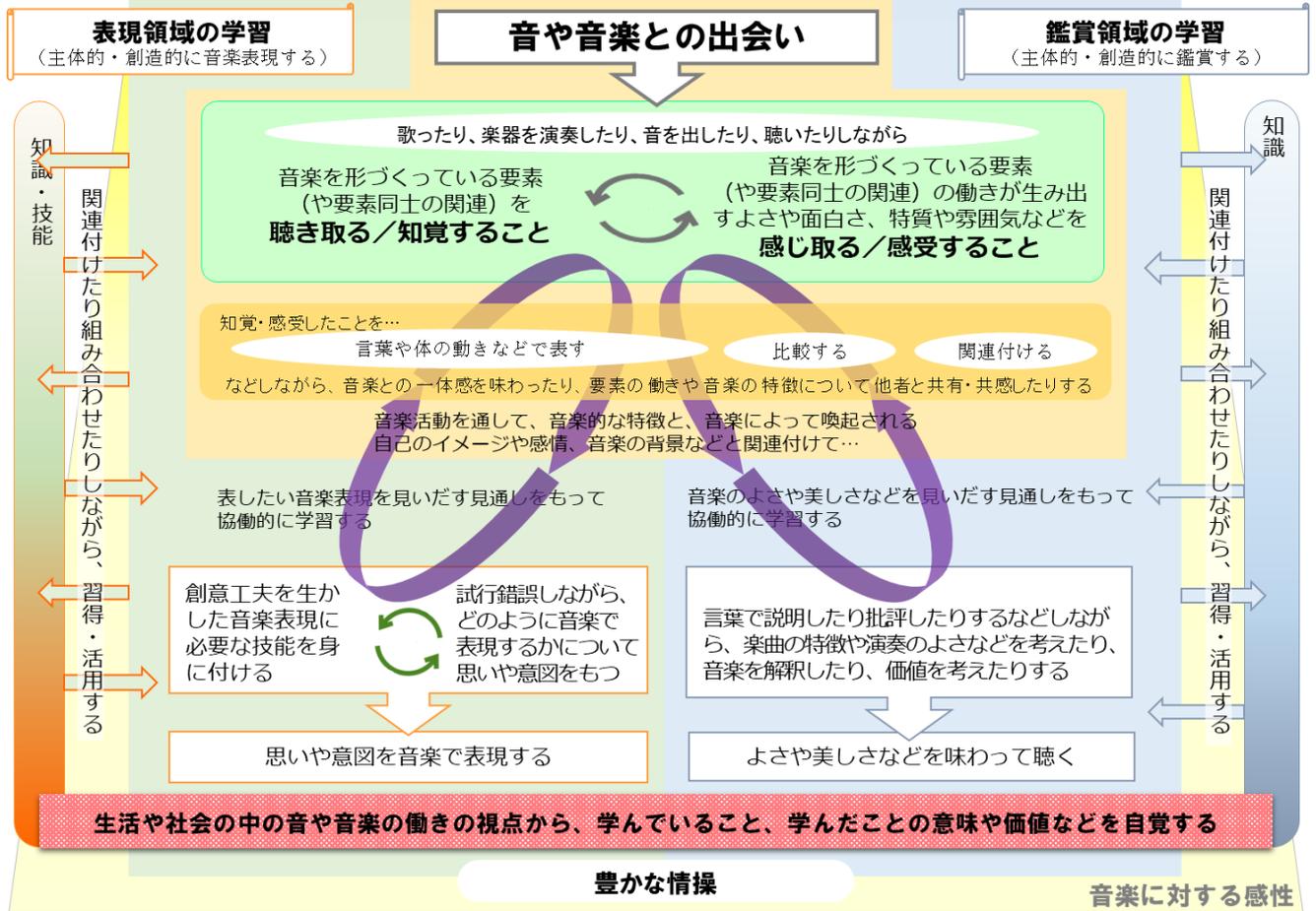


# 音楽

## 音楽科、芸術科（音楽）における学習過程のイメージ

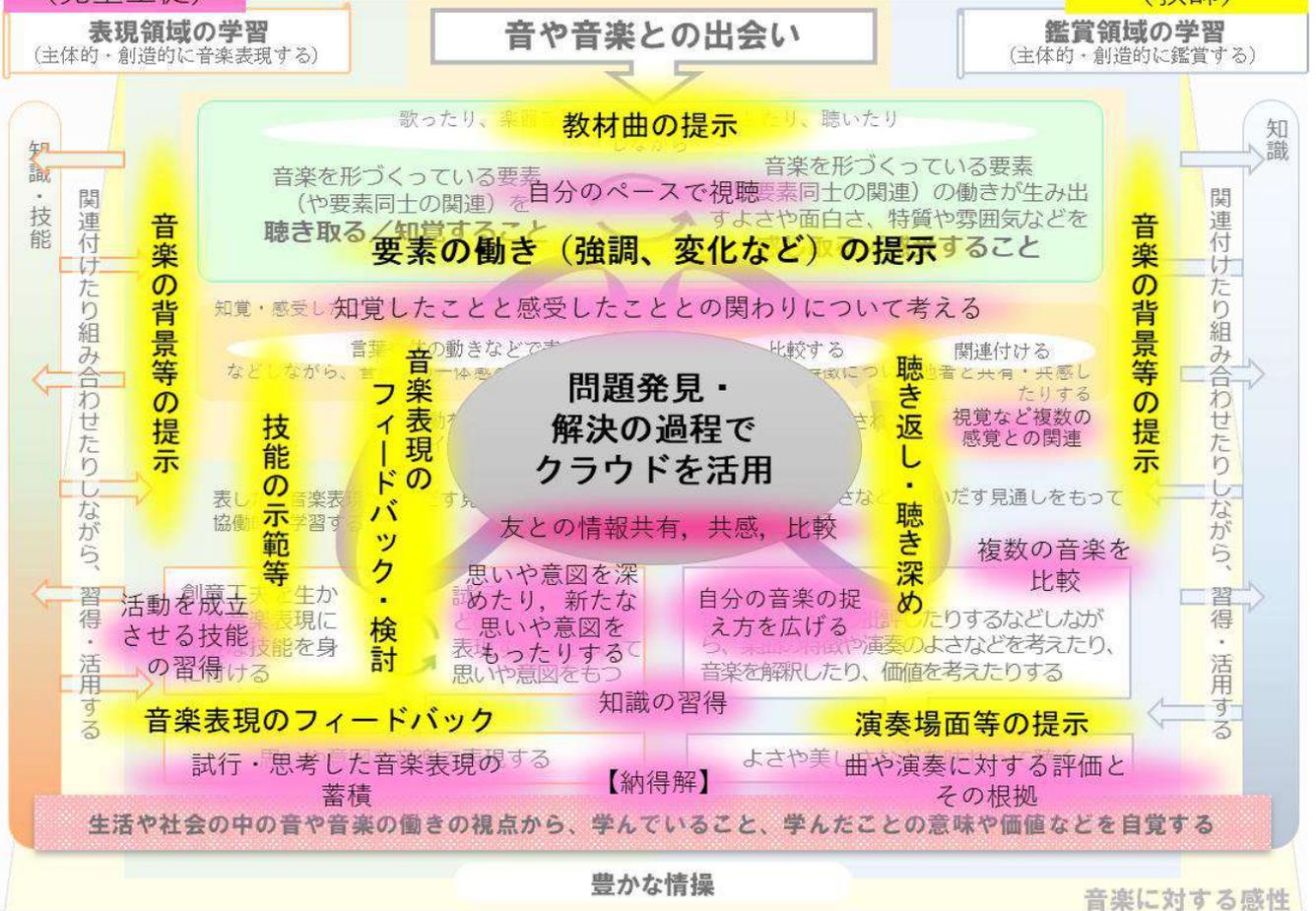
中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策について（答申）より」、平成28年12月



ICTの活用 (児童生徒)

## 音楽科、芸術科（音楽）における学習過程のイメージ

ICTの活用 (教師)



(学年・題材名) 中学校1年・詩の内容と曲想との関わりを感じ取ろう

見方・考え方：音楽に対する感性を働かせ、『魔王』を旋律とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情と関連付けること。

ICTの活用：演奏を聴いて知覚・感受したことを同時共同編集できるスプレッドシートやチャットに記入。自分が気になった部分の音源を自分のペースで聴いたり、自分に合った方法で聴いたりする。

学習場面：『魔王』を登場人物ごと区切って聴き、「旋律」をよりどころとして、知覚したことと感受したこととの関わりを考えながら、歌っている登場人物を予想する。

【課題の設定】音源、前題材の学習、友達、楽譜

暗くて怖い感じの曲だったな

どの登場人物がどの部分を歌っているか分からない。

音が跳躍するとワクワクする感じになった。



創作での学習を画面で示し、音の高低、音の進行による感じ方の違いを確認。

前題材（創作）の学習を確認する。教師は、生徒が創作で得た知識を生かしながら、見通しをもって鑑賞することができるようにする。

スプレッドシートへの記入と同時に、気付き、疑問等をチャットで情報共有したり、共感し合ったりする。教師は生徒の記入状況をタブレットで確認し、個の気付きを価値付けたり、学習を調整する必要がある生徒に働きかけたりする。

【情報収集・整理分析】音源、共有する学習カード、チャット、友達、楽譜

全体聴取の場面で



知覚・感受したことをスプレッドシートに書き込む。



気付き、疑問等をチャットで情報共有、共感し合う。

自分がさらに聴いて確かめたい部分を、自分のペース、自分に合った方法で聴く。教師は、知覚・感受が不十分な生徒に、音の高低など、旋律に着目できるようにしたり、生徒の新たな要素への気付きを価値付けたりする。さらに、新たに気付いた要素を、全体で共有する場を設ける。

個で聴き深める場面で



聴く、調べる、友と情報共有する、楽譜を見る等で確認。



2回目の「Mein Vater」の方が音が高いぞ。子が叫んでいるんだ!

反復箇所を2台の端末で同時に聴き、自分に合った方法で音高を比較。

この事例のポイント

- ・ 思考・判断のよりどころとなる音楽を形づくっている要素の精選により、生徒が考える視点や評価規準が明確になる。
- ・ 学習カードの同時共同編集により友の考えを参考に記入できる。
- ・ チャットで気付きなどの共有により、生徒の音楽の捉え方が広がる。
- ・ 自分が気になる部分を自分に合った方法で確認できる。

曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、

音楽のよさや美しさを味わって聴く姿へ